

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0895100089		
法人名	社会福祉法人 緑風会		
事業所名	グループホーム 山桜		
所在地	桜川市真壁町田638-3		
自己評価作成日	2021年1月5日	評価結果市町村受理日	2021年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

B棟のオープンから2ヶ月後、令和2年6月にA棟のオープンとなりました。周囲は田畑が多く、田植えや稲刈りの季節には、その様子を目にすることができ、のどかな雰囲気です。コロナ禍ではありますが、感染対策を取り、6月は雨引山へ紫陽花見学ドライブ、11月は大宝神社の菊花展へ出かけました。短時間ではありましたが、笑顔がたくさん見られました。その他にも、夏祭り、夕涼み会、運動会、クリスマス会などの行事を行ってまいりました。毎回職員が趣向を凝らして準備をし、皆様喜んで下さっております。また、面会も制限された中で、少しでも気分転換になるよう、玄関先での外気浴やお茶会、施設周辺の散歩をしたり、オセロゲームやカルタ取りなども、楽しんで頂いております。行事などの写真を月に一度、他の郵便物と一緒にご家族の元へお送りし、ご様子を伝えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は田畑、遠くには山並みが見える自然豊かな環境である。事業所開設にこぎつけた矢先に新型コロナウイルス感染拡大が起き、グループホームとしての共通理念である地域との交流ができなくなり、戸惑う1年だった。本来、地域との交流機会が沢山ある地域であったので、活用しなかった。それでも雨引山や大宝神社など、新型コロナウイルス感染対策をしっかりとしながら自然を満喫できた。ホーム内では、職員や利用者同士、壁を作らず、笑顔で過ごせるように務めている。系列のケアハウスに隣接して設けられたホームであり、今回が初めての外部評価であった。開設1年目ということで様々な気づきがあり、一つ一つをクリアしていこうとする姿勢が窺われた。
*** 新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に準じた理念を共有し、毎日の朝礼時に唱和を行っている。事務所と台所に掲示し、意識できるようにしている。	事業所独自の理念はまだ作成されていないが、法人の理念を念頭に置き働いている。利用者を人生の先輩として尊敬し、利用者が笑顔を絶やさず、安心して暮らせるように努めている。利用者から学ぶことは日々多いとのこと。	事業所の独自の理念と目指すものを全職員で考えることで、理念にある実践のためのケアがわかりやすくなると期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が長引いており、理想とする交流とまではいかないが、散歩中などに地域住民や隣のケアハウス職員との挨拶や立ち話などはある。	『りんりんロード』への散策をしている。季節の花が咲いており気分転換になっている。近くの幼稚園児や近所の方々と挨拶も交わす。運動会等のイベントを考えていたが、コロナ禍で自粛した。普段はひな祭り等の地域の行事もあるが、今年度は中止。老人会の行事も自粛であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望での見学の時に、困りごとや悩みをお聞きし、入居するかに関わらず、その方に合ったアドバイスを心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月より開始したが、コロナ禍の影響で介護保険課からの指導を受け、書面でのやり取りとさせて頂いている。介護保険課担当様・民生員様・区長様の意見を書面で頂き、サービス向上に生かしている。	5月より書面報告の形で開催。民生委員や区長には玄関先で手渡し、市には出向いて届ける。意見等は書面でもらう。現在は家族の参加希望者はいない。	地域密着型事業所の特性を活かし、利用者や家族も地域の一員とした暮らしを考え、家族参加を促していくことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	オープン準備時から、市役所介護保険課担当様に質問状と共に相談に伺っていた。その後も必要な解らないことがあれば、電話で質問したり、書類を届ける際にアドバイス頂いている。	行政との関係は良好。コロナ関連では、消毒液は県から、マスクやグローブは市からの支給がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に身体拘束の勉強会や話し合いを行っている。玄関は施錠していない。	就寝時のみ了承を得てベッド柵を使用している方が2名いる。ミーティング時にふりかえり、検討している。食事時のエプロンについてはご本人の意見を聞きながら使用する。指針を基に会議や話し合いをもつ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束の勉強会の際に、虐待についても学んだ。何気ないことでも、虐待になりかねないことを注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	改めての学びはこれからだが、実際に後見人がついていての方の入居を通して、後見人とやり取りさせて頂いており、必要があれば相談に乗って頂けるような関係性を築いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、重要事項などの説明を十分に行っている。小さな疑問点でも納得して頂けるよう、丁寧な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から要望があった時は、管理者から職員へ周知し、話し合いで統一事項としたことは、申し送りで伝えている。	生活の様子がわかる写真等をお便りに入れて喜ばれている。11月までは玄関や窓越しで面会を行っていたが、今は中止。家族付添いで受診をする機会もあるので、その時に交流ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なんでも自由に記入できるノートを用意し、意見や提案を共有している。また管理者から職員へ何かないか声かけており、そこから全体での話し合いになることもある。	職員からの意見は出しやすく、上司からの声掛けもある。改善された案件も多い。職員同士は個性が豊かで、コミュニケーションも取りやすい雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に事業所の様子を確認し、職員個々の話に耳を傾けている。半期ずつの個別評価シートを活用し勤務状況の把握に努めており、管理者からの報告に応じて、職場の環境・条件の整備に尽力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、評価シートの考課コメントと定期的なアドバイスを通して、管理者に必要な能力や動きの指導を行い、職員の力量報告を受けている。また、業務に必要な勉強会やセミナー参加を推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、新しく管理者になる者に対して、他グループホームで実際に業務を学ぶ機会を作った。また入居者募集の営業を通じて、管理者や職員が同業者との交流を持てるよう取り計らい意識の向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査で、本人様からどのように暮らしているのか、困りごとや不安は何かを伺い、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に、その時点での困りごとを確認する。申し込まれた時点で、担当CM様から情報を頂き、本人様の状態把握と共に、表面化していない課題についても、家族様の思いに寄り添って聴取に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人様と家族様の話を傾聴させて頂く。その後、質問をしながら状態把握を行い、必要な支援を見極めている。他のサービス利用についても、説明・提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な片付けなど、できる事を手伝って頂いた際には、感謝の気持ちをお伝えしている。人生での喜怒哀楽を伺い、思いを理解するよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にあり、状況に応じた面会方法ではあるが、少しでも家族の絆を感じて頂けるように努めている。希望者には家族による通院介助をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣のケアハウスから、こちらに入居された方がおり、ケアハウス職員が所用で来た際には、面会して頂き、なつかしく思えるような場を作るようにしている。	携帯電話を持ち、使用している方もいる。家族から電話があった時は、できるだけ本人とも会話をしてもらう。難聴の方は職員が間に入る。利用者共通の友人がいて、届いた年賀状を見せ合っていた。家族や兄弟からも届くかたもいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自ら話すことが少ない方に、他の方が話しかけやすいように、話題を提供し、一緒におしゃべりをしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービスに繋がられるように、情報提供を行い、必要時はいつでも対応させて頂くことをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日変わりなく過ごすことに慣れてしまわず、見えない思いをくみ取れるよう、コミュニケーションを取ることを大切にしている。	会話が少ない利用者が職員を心配してくれる場面がある。入浴中に昔の生活などを、自ら話し出すこともあり、ゆっくり聞いて本人の気持ちを知ることもある。また、家に帰りたい気持ちが、失禁という形で現れることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接で、実際に本人がどんなふうに住らされているか、日課や生活の場での役割は何かを聴取し、把握に努めている。併せて、担当CM様からの情報を書面と口頭で伺い参考にさせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時に申し送りノート、経過記録などを必ずチェックし、現状の把握をしている。朝夕の申し送りでは、口頭で細かい様子も伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な家族に本人の様子を報告し、意見を伺っている。ケースカンファレンスを行い、意見などを反映させている。	市の共有シートを利用して情報を統一している。アセスメントシートはミーティング時に出してもらう。利用者それぞれのできること、できないことを役割シートに記録して職員間で共有し、個別ケアに当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録を用意し、実践したケアや本人の言葉・様子を記録し共有しており、気づいたことなどから、改善したり、新たなケアに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	言葉を発することが困難な方の表情や手の動きから、少しずつではあるが気持ちをくみ取ることができている。自立の方の訴えを待つだけでなく、こちらからの提案により、新たな楽しみを見つけた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域の行事が中止となっているが、再開され次第、参加の方向で考えている。密を避け、花見ができる場所へのドライブを楽しまれ、笑顔も多く見られていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	真壁地区定期通院は職員対応。協力医療機関の田崎内科様には、他科受診の際の相談・往診も対応頂いている。今までのかかりつけ医継続の希望者については、家族での対応可としている。	夜間の対応は救急搬送で、日中の搬送もある。管理者も対応にあたる。電話相談は県の相談センターにしている。歯科は必要時に往診してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護職の常駐はなし。必要に応じて、かかりつけ医への相談を行う際に、事前の状態をお伝えし、本人様になるべく負担がかからないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にすぐに情報提供できるように「桜川市医療と介護の情報連携シート」の定期的な更新を行っている。入院した際は、担当相談員様との相談・情報交換に努めており、退院前の本人様の面談を依頼させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	寝たきりの方について、今できる支援は何か、本人がして欲しいことは何か、を話し合い、1つずつ実践に移していった。	基本看取りは行わない。家族の強い希望でギリギリまで見ていた方も、最後は病院対応となった。将来的には、家族の希望があれば看取りも行いたいと考えている。今後、利用者の症状の変化等予測されるので、備えていきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	4月の勉強会で「相談苦情事故対応マニュアル」を学び、各自にマニュアルを配布している。利用者の体調不良や転倒リスクを申し送りなどで共有し、想定される事態についての指導・指示を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、誘導の方法・避難場所・各自の役割を確認、共有している。	様々な災害に合わせたマニュアルが必要。水害時はケアハウス3階にと考えている。避難訓練は火災想定で行った。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念である「ご利用者の人格を尊重し・・・」人生の先輩である尊敬と礼節の態度をもって言葉かけに努めている。不満や不安を訴える方に対しては、否定せず、傾聴の態度で接するよう努めている。	幼い子供に対する言葉や、繰り返し言葉をかけてしまうことがあるなど、まだ個別対応が不十分な職員もいるので丁寧に指導していく。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら意思表示をすることが少ない方にも、こちらから選択肢を用意することにより、自分で決めるという場を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、昼寝など、一人ひとりのペースに合わせて行っている。いつも同じと決めこまず、その都度、希望を確認し、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備や外出前など、どの服を着用するか声かけし、本人に好きなものを選んでもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯と味噌汁は、職員が台所で作っており、調理の様子を見たり、メニューについて話したりしている。テーブル拭きをして下さる方もいる。	献立はケアハウスで作成し調理。御飯、みそ汁、おやつはホームで作る。誕生日は赤飯やケーキを作り、クリスマスや正月は特別メニューになる。食形態は個人に合わせ、ペースト食の方もいる。5月はお寿司を宅配してもらった。夏まつり、敬老会はホーム内で楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が作成したバランスのとれたメニューとなっている。水分摂取量が少ない場合には、好みのものをすすめるなどの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面台での歯磨きが可能な方は、声かけや誘導し、自力で行って頂いており、必要に応じて、ブラッシングの介助をしている。歯磨きが困難な方には、口腔ケアスポンジを用意し介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿の間隔や尿量に応じて、声かけや誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	自立している方もいる。チェック表を利用し、トイレの様子を見て把握している。夜間、睡眠導入剤を使用する方はオムツ対応だが、日中はリハパンで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は特にいないが、逆に下痢にならないよう、便の形状スケールを参考にし、排便状況に応じて酸化マグネシウムを調整し、コントロールをしている方がいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自ら希望される方はいないが、週2回を目安に入浴できるようにしている。通院時などと重なった場合には、本人の意思を尊重して決めている。	拒否される方はいるが、声掛けを工夫して対応。着替えは職員が準備。洋服だけ選ぶ方もいる。湯船の温度や、湯量の希望に合わせて調整できる。会話が進むことが多いので、ゆっくり会話を楽しんでいる。ゆず湯や入浴剤での楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事時以外は、したいことをされたり、居室で休まれたりと、自由に過ごしていただいている。就寝時間についても、希望にそった時間としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理ノートに、受診結果を記入し共有している。処方の変更や医師の指示なども記入し、状態変化に気をつけている。お薬情報を個別に保管し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こちらからのお願いがきっかけとなり、口腔ケアワゴンを片付けて下さるようになった方がおり、自分の役割として継続されている。オセロゲームを楽しむ姿もあり、笑顔も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候に合わせて、玄関前での外気浴やお茶会を行っており、季節の花見にドライブに出かけたりもしている。地域の行事が再開された折には、地域の方々にも協力をお願いしたい。	外出の代わりに玄関先でかき氷、シャボン玉を楽しみ、日光浴を行った。隣のケアハウスの庭を楽しみながら、建物の周辺を散歩する事はある。自然に恵まれた環境なので、外出できないのが残念である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務所で預かっていることと、必要な物は購入できることを、本人に伝えてあり、希望の物を購入したりしている。レクで外出した際、好みの物を購入したりもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方はいない。実際にはまだないが、電話や手紙の希望があれば、間に入るなどの支援をしていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく開放的な雰囲気となっている。季節の花を活けたり、その時期にあった装飾品などを飾り、目を楽しませている。	玄関には生け花あり、温度・湿度については、加湿器を利用しながら管理している。換気も気を付けている。玄関先で『日本昔ばなし』の本の読み聞かせを行っている。利用者にも読んでもらう。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席で一人でゆっくりされることもあれば、他の方の席をお借りして、数名で談話される場合もある。ソファーは人気の場所でもあり、譲り合って座る姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お気に入りの物や、使い慣れた布団や衣類をお持ちいただき、使用されている。気持ちよく過ごせるよう、居室担当の職員が整えることもある。	部屋は全体的にさっぱりと片付いている。開設して間もないことから、まだ持ち物等も多くない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室から出るとすぐにリビングという作りになっている。どの方でも安全に移動できるよう、動線を確認し、最小限の支援を心がけている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム山桜

目標達成計画

作成年月日 : 2021年5月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人の理念を掲げ、毎日の朝礼時に唱和しているが、事業所独自の理念はまだ作成されていない。	事業所独自の理念を全職員で考えることで、理念にある実践のためのケアをわかりやすくする。	全職員で事業所独自の理念と目指すものを考え、作成し、毎日唱和することで理念をこころに刻み、理念に沿ったケアを実践していくよう努める。	3ヶ月
2	3	2か月に一度運営推進会議の形をとってはいるが、新型コロナウイルス感染予防の観点から書面報告の形で行っている。実際に集まらないことで、家族の参加希望者がいない現状。	地域密着型事業所としての特性を生かし、利用者や家族も地域の一員とした暮らしを考える事ができる運営推進会議を目指す。	グループホームを知ってもらえるように家族の参加を促していく。対面で会議を行えるようになれば、市役所の職員や地区の民生委員、区長、事業所の管理者と直に話し合えるようになる事を定期的にお知らせする。	6ヶ月
3	13	年2回の避難訓練とスタッフに避難場所の周知を行っているが、今の所は火事の場合のみの訓練となっている。様々な災害に合わせたマニュアルが必要。	地震・火事・水害など想定される災害に対するマニュアルを作成し、事業所としての優先順位をつけて周知できるようにする。	ハザードマップの確認、避難場所への経路確認、災害ごとのマニュアル作成、事業所としての優先順位を決める。水害時の垂直避難場所として隣のケアハウスをお願いしていく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。